Hokkaido University
Frontier Foundation

北大フロンティア基金
活動報告書

令和6年度

北海道大学

CONTENTS

目 次

02 総長挨拶

03 実施事業報告01
株式会社キットアライブ代表取締役社長 嘉屋 雄大 様
取締役管理部長 内田 みさと 様

05 実施事業報告02
学務部学務企画課大学院教育改革推進室専門員 土井 將義

07 実施事業報告03
北海道大学病院教授 西尾 妙織

09 実施事業報告04
硬式野球部マネージャー 舘岡 優衣・喜多 純蓮

11 北海道大学
創基150周年応援メッセージ

13 北大フロンティア基金
令和6年度の概要

15 創基150周年記念募金

17 支援事業一覧

19 クラウドファンディング

21 寄附申込方法

22 税制上の優遇措置

23 遺贈について

24 寄附者の皆様への御礼

北海道大学の次の150年を見据えて

北海道大学総長 寶金清博

平素より北海道大学の教育・研究活動を支える「北大フロンティア基金」に深いご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

このたび、令和6年度の北大フロンティア基金の活動報告書を取りまとめました。本報告書では、皆様からのご支援によって実現した多様な取り組みと、その成果をご紹介しております。本学の教育・研究の一端をご覧いただければ幸いです。

令和8(2026)年に本学は創基150周年という大きな節目を迎えます。これを機に北大フロンティア基金では、令和5年度から令和8年度までの4年間、「創基150周年記念募金」に取り組んでおります。

令和6年度はその2年目にあたり、皆様から約8.5億円のご支援をお寄せいただきました。改めまして、深く感謝申し上げます。

1876(明治9)年に札幌農学校として開校した本学は、W.S.クラーク博士の意思を受け継ぎ、日本の基幹大学として、広大かつ多様なフィールドを活かした教育・研究を展開することで、他に類を見ない個性を形成してきました。令和7年6月に発表となりました「THEインパクトランキング2025」において、世界総合44位、国内1位(6年連続)という評価を受け、本学の教育・研究、そして社会連携の取り組みが、国際的にも高く評価されていることが示されました。

さらに、文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に「フィールドサイエンスを基盤とした地球環境を再生する新たな持続的食料生産システムの構築と展開」が採択され、世界共通の目標である「持続可能なWell-being社会」の実現に向けて、本学が果たすべき役割は大変大きいものと考えています。

一方で、大学を取り巻く環境は厳しさを増しており、国からの運営費交付金は年々減少傾向にあります。大学が自律的にその使命を果たしていくためには、寄附をはじめとする自主財源の確保が一層重要となっております。皆様からのご支援は、学生や研究者の挑戦を力強く支える原動力であり、本学が次の150年にわたって社会に貢献し続けるための大切な礎です。

今後とも、北大フロンティア基金への温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

実施事業報告

01

北大テックガレージ

株式会社キットアライブ代表取締役社長
嘉屋 雄大 様

×

株式会社キットアライブ取締役管理部長
内田 みさと 様

「つくって試し、またつくる」自ら考え挑戦し続ける学生のために。

北大テックガレージは、"世の中にないものを作り出す秘密基地"として、北海道大学の学生によるプロダクト開発を支援するプログラムです。この取り組みに継続的に支援を行っているのが、札幌を拠点とするIT企業・株式会社キットアライブです。学生の熱意に共感し、寄附というかたちで挑戦を後押しする同社の思いを伺いました。

2000年12月株式会社ウイン・コンサル入社、
2016年8月株式会社キットアライブ設立現職

2013年アールビバン株式会社入社、2015年6月株式会社テラスカイ入社
2017年3月株式会社キットアライブ出向、2020年9月株式会社キットアライブ転籍
2021年1月より現職

作業スペースには高性能PCはもちろん、3Dプリンターなどの工作機器や映像制作に必要な撮影機材が揃う。

仮説と現実のギャップ 失敗からアップデートを繰り返す

内田 弊社には北海道大学出身の社員が多く、代表の嘉屋も北大の卒業生です。学生に会社を知ってもらいたいという思いがあり、広告のような一方向の発信ではない関わり方を模索していました。そうした中で出会ったのが、学生の挑戦を支えるテックガレージの活動でした。

嘉屋 まず注目したのはその実践的な取り組みです。学生は長期休暇を活用し、リーンスタートアップの手法――試作品を作り、ユーザーの声をもとに改良するサイクル――を自ら経験します。

北海道大学教育学部4年テックガレージ生
高堂 昂

「SFP Dash」の創設メンバー。北大テックガレージには2023年夏より計3回参加。

■ **「ものづくり」に興味を持ったきっかけ**

ずっと好きで興味のあったアニメ制作が「ものづくり」のスタートでした。パソコンが好きだったため、3DCGを用いる方法について勉強を始めたところ、XR技術にも興味がわき、VRワールドの作成や簡単なARコンテンツ開発についても取り組むようになりました。具体的には、先輩の学生起業家と一緒に「誰もが明日スキップして学校に行ける社会を作る」をビジョンに外見に悩みを持つ中高生と美容専門学生のマッチングサービスの開発に取り組み、AR技術を用いて前向きにメイクに挑戦する背中を押すプロダクトの開発を行いました。

■ **SFP Dashで叶えたいこと**

テックガレージで学んだ"世の中に新しい価値を創る"文化と方法を活かして、現在は学校教育の学びの体験をアップデートするために、高校の探究学習を伴走するAIパートナーを開発しています。SFP Dashでは、OBとして培ったものづくりの熱と文化を次世代へ継承し、ものづくりでイノベーションを起こす学生コミュニティの醸成を目指しています。

この過程で学生は仮説と現実のギャップに向き合い、思考と行動の両面を磨いていきます。こうした実践重視の教育に共感し、高い壁に挑む学生の姿に心を打たれました。変化の激しいIT業界で価値を提供し続けるためには、企業も挑戦し続ける必要があります。学生たちの挑戦する姿勢は、弊社のミッション「challenge together.」とも通じていると感じました。

学生から生まれた新たな挑戦「SFP Dash」

内田 さらに継続的に関わるなかで、学生の発案により生まれた「SFP Dash」という挑戦にも注目しています。これは、「1度の参加だけだと熱量維持が難しい」等、参加学生が感じた課題がもとになり始まった取り組みです。学生が主体となって同じ志の仲間を募り、新たな挑戦の場を立ち上げようとしています。「泥臭くても前に進みたい」と自ら考え行動する学生に深く共感し、継続的な仕組みとして運営しようとしている点に感銘を受けました。

寄附に込めた思いとこれから

嘉屋 キットアライブは、寄附を「生きたお金」として活用してほしいという思いを持っています。お金に色はないものの、寄附者には「どのように使われるか」に対する明確な期待があります。そのため、大学や学生には寄附の意図を汲み取り、活用方法を真剣に考えてほしいと願っています。

内田 テックガレージ関係者との対話を通じて、「寄附者としての思いを発信することの重要性」を感じるようになりました。寄附は見返りを求めるものではありませんが、そのお金が学生の挑戦に確実に活かされていくことに、大きな意味があると考えます。北海道大学、そして北海道がさらに発展していくことを願いながら、他の企業や関係者にも「ともに寄附というかたちで関わってみませんか」と呼びかけたいです。

人材育成事業への寄附はこちらから▶
企業独自の寄附プロジェクトをご希望の場合は卒業生・基金室にご相談ください

実施事業報告

02

北海道大学 サイエンスフェスタ

学務部学務企画課大学院教育改革推進室
土井 將義 専門員

（前列左から５人目）北見工業大学、大学評価・学位授与機構（現・大学改革支援・学位授与機構）での勤務を経て、2009年より北海道大学勤務。2022年より、学生の研究成果や独創的な取組を社会に伝えると共に、次世代にサイエンスの魅力や面白さを伝えるイベント「サイエンスフェスタ」を主宰。Teamサイエンスフェスタ代表。社会教育士。

大学院生からさらに若い世代へ

「未来社会の開拓者」を育てたい。

次世代へ繋ぐ、北海道大学が掲げる人材育成像

本学では、150年の歴史の中で培われてきた、世界を先導するフロンティア研究、実学研究を基盤としたフィールド研究、人文社会学系を含めた異分野融合研究に裏打ちされた「本学の強み・特色を生かした教育研究環境で育成する、未来社会を牽引する知のプロフェッショナル」、すなわち「未来社会の開拓者」を育成したいと考えています。

「未来社会の開拓者よ、大志を語れ」の一場面

そして、本学の学生だけではなく、次世代を担うさらに若い世代にも、本学の基本理念である「フロンティア精神」を持って未来を切り拓いてもらいたいと考えています。

皆さまのご支援により実現した“明るい未来”が見える2日間

本学の学生の活動や研究成果が未来社会に還元される姿を一般市民の方々に知っていただくとともに、小学生、中学生及び高校生に、サイエンスに興味を持ってもらい、サイエンスを通じて、新たな学びや気付きを生む機会を提供することを目的として、2022年から毎年12月に、札幌駅前通地下広場（通称「チカホ」）にて、「北海道大学サイエンスフェスタ」というイベントを開催しています。

人材育成事業への寄附はこちらから ▶

本イベントの中心となる企画である「研究成果でSDGsに貢献する発表会」では、本学の大学院博士（後期）課程学生が、自分の研究テーマがどのように社会に還元され、課題解決に繋がるかを、一般の方にもわかりやすく伝えるポスターを展示しています。高度な専門知識をわかりやすく説明することで、研究成果がどのように社会に活かされるかを知ってもらい、大学院で行われている研究が意外と身近な存在であることを感じてもらうことを目的としています。当日は学生が自身のポスター前に立ち、来場者への質問に応じることで、新たな対話の場となることも期待しています。さらにSDGsをテーマに、未来社会を担う小学生、中学生、高校生などを対象に、多くのサイエンスワークショップを実施しています。また、ステージイベント「未来社会の開拓者よ、大志を語れ」では、小学生から大学院生までの幅広い年代の学生が、サイエンスが創造する明るい未来について、熱い思いとともに発表しています。このようなイベントは、大学の予算だけで開催することは困難ですが、皆さまからの、本学への人材育成に対する支援と期待により実現することが出来ました。改めて御礼申し上げます。

研究成果でSDGsに貢献する発表会

LEGO®SERIOUS PLAY®
メソッドと教材活用によるみらい創造ワークショップ

「北海道大学サイエンスフェスタ」は札幌だけでなく東京でも開催

「北海道大学サイエンスフェスタ」は数多くのマスコミ等でも取り上げていただき、2023年と2024年は、東京ビッグサイトで開催されるSDGs啓蒙イベントからもお声掛けいただき、参加致しました。本学が東京のイベントに参加することは非常に稀ですが、皆さまからのご支援により、首都圏の方だけは無く、中部地域、更には関西圏の小学生にも、本学の魅力やSDGsに貢献する取組を知っていただくことが出来ました。

東京ビッグサイトでの出展ブース

北大でサイエンスに触れた子ども達が未来社会を創る

3年前、「北海道大学サイエンスフェスタ」で本学教員のステージ講演を聴いた小学生が、サイエンスの魅力に目覚め、昨年には中学生となって、本イベントのステージで自らの研究成果を堂々と発表しました。このような“学びの好循環”が、すでに芽吹き始めています。今後も、より多くの子ども達にサイエンスの魅力を届けることで、未来社会を創造する人材へと育っていってほしいと願っています。引き続き、皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

実施事業報告

03

支援を受けた研究者の声

Researcher's voice

北海道大学病院

西尾 妙織 教授

血液浄化部所属。
多発性嚢胞腎研究グループ中心メンバーとして
嚢胞形成機序・治療法の解明を目的に
基礎研究を進めている。

多発性嚢胞腎の患者さんに新しい治療を届けられる未来へ!

多発性嚢胞腎の患者さんの現状

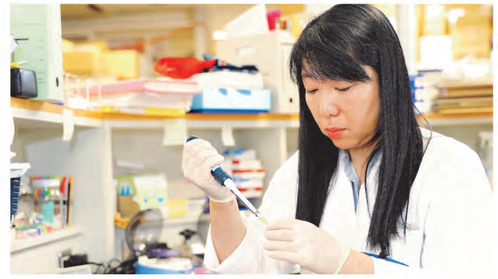
常染色体顕性多発性嚢胞腎（ADPKD）は遺伝性腎疾患の中で最も多く、両方の腎臓に液体がたまった袋（嚢胞）ができ、年をとるにつれて嚢胞の増大とともに腎臓の機能が低下し、60歳までに約半数の患者さんが末期腎不全のために透析が必要となります。腎臓以外に肝臓にも嚢胞ができ、さらに高血圧など多くの症状が起こる遺伝性の病気です。現在トルバプタンがADPKDの治療薬として唯一承認されている薬剤です。

トルバプタンは嚢胞増大の抑制や腎機能悪化を遅らせる作用があり、世界で広く使用されています。しかしながら、多尿とそれにともなう多飲の副作用があるのが課題となっています。また、進行を遅らせる事はできるものの、トルバプタンを内服していても末期腎不全に至る患者さんも少なくありません。これらの事から新規治療薬の開発が必要です。

難病「多発性嚢胞腎」新規治療薬開発の
基礎研究に対するご支援を
寄附はこちらから▶

新規治療薬の開発

私たちの教室ではADPKDの新規治療薬を目指して動物実験を行っています。今回アミノ酸吸収阻害薬であるエンテロペプチダーゼ阻害薬(SCO-792)が嚢胞形成を抑制し、腎臓の機能悪化を抑制することを新たに明らかにしました。この動物実験をさらにすすめ、患者さんに届けられるための臨床試験につなげる事がこのプロジェクトの目標です。



皆様からの期待の大きさを実感

クラウドファンディングで目標金額6,700,000円に対し14,077,000円と目標を大きく上まわるご寄附をいただきました。ご寄附をいただきました皆様に心から感謝を申し上げます。
何よりも皆様からあたたかいメッセージをいただき、ADPKDの患者さん、そのご家族、ご友人がいかに本治療薬に対して期待されているかを実感いたしました。そして、期待にお応えすべく、頑張らなければならないと、決意を新たにしております。ご支援いただいた事が無駄にならないようにしっかりと頑張って参ります。

今後の展望

現在ADPKDの疾患モデルマウスに対してエンテロペプチダーゼ阻害薬を投与した結果、非常に効果があることが概ね証明できております。今後は現在の治療薬であるトルバプタンとの比較やトルバプタンと同時に使用した場合にどの様な効果が出るかに関しても研究をすすめる予定です。これらの結果によって、今後、臨床試験を行えるように現在様々な準備を行っております。
まだまだ乗り越えなければならない事もありますが、一日も早く患者さんに届けられるよう一層努力してまいります。

ADPKDの患者さんの中には、
腎臓だけでなく、**肝臓にも多数の嚢胞が出現**し、
肝臓が大きく腫れることがあります。

これにより、
腹部膨満や食欲低下、呼吸が苦しい
などの症状を引き起こします。

このような**肝嚢胞に対する治療薬は、まだありません。**

肝嚢胞

トルバプタン（バソプレシンV2受容体拮抗薬）は、
2014年、ADPKDの治療薬としてはじめて
承認を受けた薬です。

腎臓にはたらきかけて
体内の余分な水分を排出させるため、
尿量が増えます。
これに伴い、のどの乾きを感じやすくなり、
水分補給が多くなります。（多飲）。

クラウドファンディング期間中、500件以上の温かい応援メッセージが寄せられました。その一部をご紹介いたします。

- 頑張ってください！治療薬が開発され、患者さんたちに明るい未来が訪れますように。
- 患者の一人として、このような志しに感謝します。あきらめずに頑張っていたら、きっと道は続いていくと信じています。自分も頑張ります。
- 患者さんにとって明るい光がさすような成果を期待しております。本当にわずかですが、協力させてください。
- 治療法が確立されていない病気で不安だらけですが、日々研究して下さる方に感謝しております。治療薬ができることを祈っております。
- 大変かと思いますが、心から応援しております。今、苦しんでいる方に少しでも希望を持ってもらえたらと思います。
- 新たな治療薬の研究をしてくださっていることを心強く思います。早期に承認されることを願っています。頑張ってください！

実施事業報告

04

支援を受けた学生の声

Sudent's voice

歴代OB・OGの想いを胸に悲願の一部リーグ優勝へ

硬式野球部マネージャー
喜多 純蓮
北見緑陵高等学校卒
法学部3年

硬式野球部マネージャー
舘岡 優衣
香蘭の水女子大附属高等学校卒
経済学部4年

長年の課題だった グラウンド環境の整備

北海道大学硬式野球部は創部124年目を迎える部で、現在は札幌学生野球連盟一部リーグで戦っています。強豪私学のように素質に恵まれた選手が揃っているわけではありませんが、懸命な努力で「個」の力を高め、それを束にした強いチーム作りに励んでいます。そんな中で、グラウンド環境の整備が長年の課題として挙げられていました。

外周フェンスやネットの劣化が進み、選手の怪我に繋がってしまったこともあります。2023年春、弊部グラウンドでの練習試合中にファールボールを追った選手が外周フェンスに激突し、額を7針縫う大怪我をする事故が発生しました。この事故を契機に、選手の安全を守るための早急な環境整備が必要だと、部内での問題意識がより一層高まりました。しかし、国立大学ということもあって我々の資金力は弱く、自力では整備が進みませんでした。そこで、クラウドファンディングを通して多くの方々にご協力いただくことで、グラウンド環境整備への着手を実現しようということになったのです。

2025年8月に行われた七大戦では見事優勝を果たしました!

決勝で先発を務めたエース小岩選手

決勝3安打4打点の活躍をみせた4番キャプテン浅倉選手

不安とはうらはらにスピード達成 野球部を大切にしてきてくれた 先輩たちの存在を実感

クラウドファンディングでは、外周フェンスの改修、防球ネットや大型ネットの改修、ピッチングマシンの更新などを目標に掲げました。それらの実現のために目標金額を300万円と設定し、2024年4月のプロジェクト開始を目指して前年の冬から準備を始めました。当初は、大学生の部活動のために協力してくれる方がどれだけいるのだろうかと、不安な思いもあったのが正直なところです。しかし、実際は4月16日のプロジェクト始動からわずか10日間で、目標の300万円のご寄附をいただくことができました。このような大きな金額を集める力が自分たちの部にあったことに大変驚くとともに、歴代ＯＢ・ＯＧの方たちが北大野球部というものを大切にしてきてくれたがゆえの結果であるとも気付かされました。また、予定より大幅に早く目標達成ができたため、第二目標を設定し、老朽化しているプレハブ施設の改修も目指すこととしました。プレハブ施設では、部の運営にかかわる様々な活動を行っています。しかし、入り口のドアが破損するなど傷みが激しく、早急に改修に着手したい状態でした。第二目標の設定後、最終的には約524万円ものご寄附をいただくことができました。弊部のためにお力添えをしてくださった方々には、感謝の念に堪えません。

目標は「一部リーグ優勝」 支えてくださる方に感謝し 全力を尽くす

プロジェクト終了後、外周フェンスやネットの改修、ピッチングマシンの購入、プレハブの改修などを予定通り進めることができました。さらに、壊れかけていたキャッチャー防具やグラウンド整備の道具の購入にも寄附金を充てさせていただき、選手の練習環境を大幅に改善することができました。プロジェクトの実務を担当したのは指導者とマネージャーですが、選手たちも自分たちの活動がいかに多くの方のご支援・ご協力によって成り立っているのか、改めて実感したところです。プロジェクトで掲げた一部リーグ優勝・神宮大会出場は、春季リーグ戦では達成できませんでした。厳しい道ではありますが、沢山の方々に支えていただいている部として有言実行すべく、次のリーグ戦に向け全力を尽くしてまいります。今後とも、北大野球部へのあたたかいご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。また、改めまして、本プロジェクトを支援してくださった多くの方々に、この場を借りて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

硬式野球部への寄附はこちらから▶

先輩たちから、母校にエール！

北海道大学 創基150周年応援メッセージ

1876年に札幌農学校として開校して以降、北大の歴史を創ってきた卒業生のみなさまから、創基150周年を迎える北大へメッセージをお寄せいただきました。みなさまのお気持ち・激励を胸に、これからも新たな歴史のページを積み重ねてまいります。

母校への想いを『札幌農学校 北海道ミルククッキー』に乗せて
長沼 昭夫 様

2004年9月、母校の「ポプラ並木」が台風の影響で壊滅的な被害を受けました。学生時代からとても大切で、大好きな場所であり、ぜひとも再生の力になりたい……との思いから2005年、北海道大学とのコラボレーション商品が誕生しました。以来、札幌農学校ブランドとして複数の商品が生まれ、売上の一部を母校の支援に充てさせていただいています。ミルククッキーを始めとする札幌農学校ブランドは、おかげ様で多くの皆様に召し上がっていただくことができ、誕生から20年後の2025年4月、母校への支援額が2億円を超えるまでになりました。商品を選んでいただいた皆様への感謝と母校へのたくさんの想いを乗せて、これからも『札幌農学校』を通して、さらに多くの学生を支援していきたいと思っています。

Profile

1972年水産学部漁業学科卒、きのとや創業者、
北海道コンフェクトグループ株式会社 取締役会長。

北海道ミルククッキー

焼きたて酪農チーズケーキ

3種の焼きチーズクッキー

「ＩＴ」で「幸せ」に挑む。 白幡 一雄 様

北海道大学での4年間―正確には5年間(笑)―は、その後の人生の糧となる重要な時間でした。今も続く『自然に親しむ会「野客」』というサークルで道内の多くの山で仲間と過ごした時間、LINAC（電子線形加速器）の地下室に籠って実験した時間、卒論作成中の徹夜明けに雪景色の銀杏並木を歩いた時間、どれをとっても卒業後の自分を支えてくれました。150周年を迎える北大に感謝。これからも素敵な時間を学生たちに与えてください。

Profile

1986年工学部原子工学科卒、株式会社ＨＢＡ代表取締役執行役員社長。

人との出会いを大切に 山田 浩 様

北大を卒業して45年。年を取るとともに、学生時代を振り返ることが多くなりました。4年生の12月のインカレまでプレイしていたバスケットボールを通じて知り合った仲間、先輩後輩、他大学の方達、そして、研究室の先輩のみならず、神岡鉱山や資源大学校での研修で知り合った企業の方達や海外の研修生との交流など、様々な人との出会いが、その後の社会人人生の糧になったことを実感しています。北大生！世界をめざしてガンバレ！

Profile

1981年工学部資源開発工学科卒、日特建設株式会社顧問。

未来の食は海にあり 正木 崇 様

海にあこがれ、水産に入り、2年間過ごしました。それに反して陸上での仕事をしています。函館から得たものは妻です。海の生物の養殖技術は今後さらに必要になります。基礎を勉強し、将来ビジョンをたて、人類に貢献してください。水産魂でがんばりましょう。

Profile

1970年水産学部漁業学科卒、日本テクノサービス株式会社代表取締役会長。

今もつづく北大の縁 磯田 彩実 様

去年、工学部100周年記念セレモニーの司会を仰せつかり、偉大な先輩方や学生の皆さんと触れ合う中で北大から広がる繋がり"縁"を強く感じました。日々の取材でも、数々の先輩方との出会いがあり、北海道から全国、世界まで、その活躍の範囲は広く、150年という時間をかけて生み出され続けた知識と人材の豊富さを目の当たりにしています。今も鮮明に蘇るキャンパスライフも、その後の人生に訪れた多くの縁も、人生を構成する大切なピースです。これからも続くであろう北大発の縁を、楽しみにしています。

Profile

2012年工学部情報エレクトロニクス学科卒、テレビ北海道アナウンサー。

創基150周年記念募金に、北大への思いや応援の言葉をいただいたことから、このページが誕生しました。
是非応援の輪を広げていただけると幸いです。創基150周年記念募金とあわせて、皆様からのメッセージをお待ちしています。

寄附申込みフォーム内「応援メッセージ」欄に是非お言葉をお寄せください！ ▶▶▶

北大フロンティア基金 ［令和6年度の概要］

北大フロンティア基金は、平成18(2006)年、本学創基130年を期に、教育研究の一層の充実と自主性・自立性を発揮する大学としての使命を果たすために創設され、多くの方々からのご寄附に支えられています。令和6(2024)年度、北大フロンティア基金には、皆様の本学へのご理解と温かいご支援により約8.5億円の寄附を賜りました。心よりお礼を申し上げます。皆様からのたくさんのご寄附は、奨学金制度の充実や留学生への支援、研究活動、各学部の活動等、寄附の目的に沿って活用させていただきます。

北大フロンティア基金創設時からの累計

申込件数	53,761 件
寄附金額	8,336,048,249 円

(うち運用利息 374,190,092円)

令和6年度の受入

申込件数	6,420 件
寄附金額	862,341,707 円

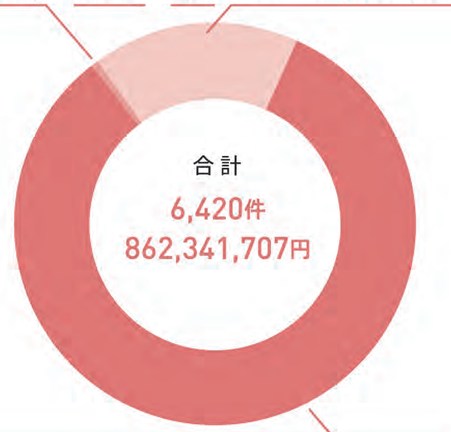
(うち運用利息 5,994,123円)

受入状況

寄附金額(令和6年度)

運用利息 5,994,123円

大学全体への支援 1,279件 144,375,261円

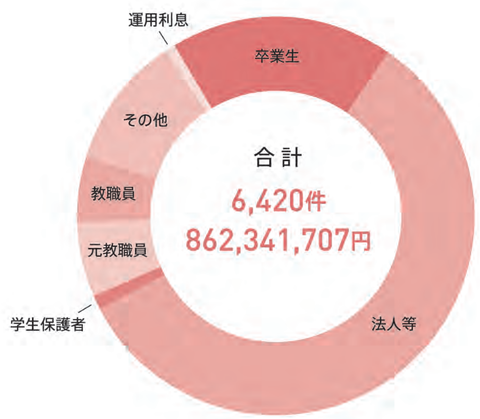


特定基金 5,141件 711,972,323円

特定基金の内訳

150周年特定記念事業	181件	48,310,000円
学生支援	1,471件	104,862,276円
研究支援	90件	2,223,000円
社会貢献活動支援	2件	120,000円
学部等支援	2,959件	427,548,482円
施設・環境整備支援	47件	1,626,000円
新渡戸カレッジ支援	23件	11,558,000円
国際連携支援	25件	73,000円
卒業生との連携支援	1件	254,549円
産業界との連携支援	8件	538,000円
修学基金	255件	11,421,600円
ポスドク等研究者支援基金	76件	5,987,500円
その他	3件	97,449,916円

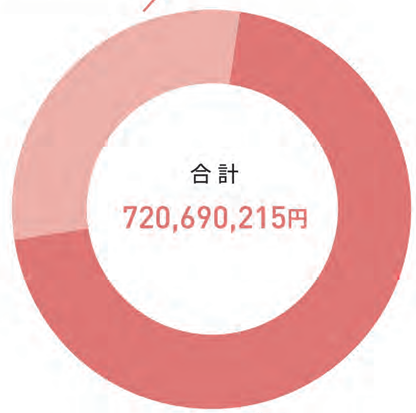
寄附者別内訳(令和6年度)



卒業生	2,362件	156,970,997円
法人等	488件	499,157,796円
学生保護者	405件	9,456,777円
元教職員	290件	51,183,000円
教職員	1,298件	44,995,758円
その他	1,577件	94,583,256円
運用利息		5,994,123円

支出状況(令和6年度)

大学全体への支援 215,074,262円



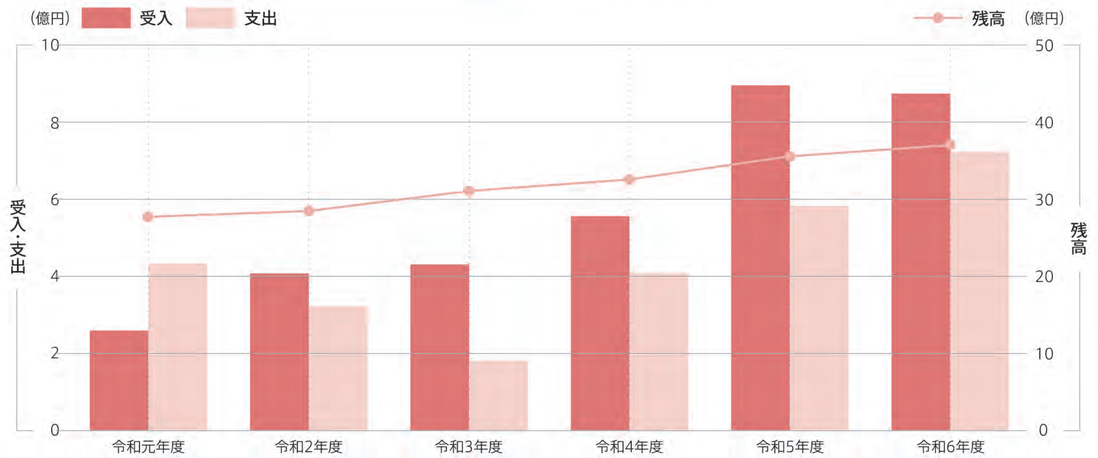
特定基金 505,615,953円

特定基金の内訳

学生支援	214,668,454円
研究支援	8,096,097円
社会貢献活動支援	764,500円
学部等支援	275,625,791円
施設・環境整備支援	-7,395,984円
※過年度支出額の戻し入れ	
新渡戸カレッジ支援	1,951,322円
国際連携支援	10,640,000円
卒業生との連携支援	358,100円
産業界との連携支援	0円
修学基金	0円
ポスドク等研究者支援基金	642,235円
その他	265,438円

受入・支出累計額の推移

令和6年度末 残高 3,728,822,409円



※上記、受入・支出累計額には、運用利息を含みます。

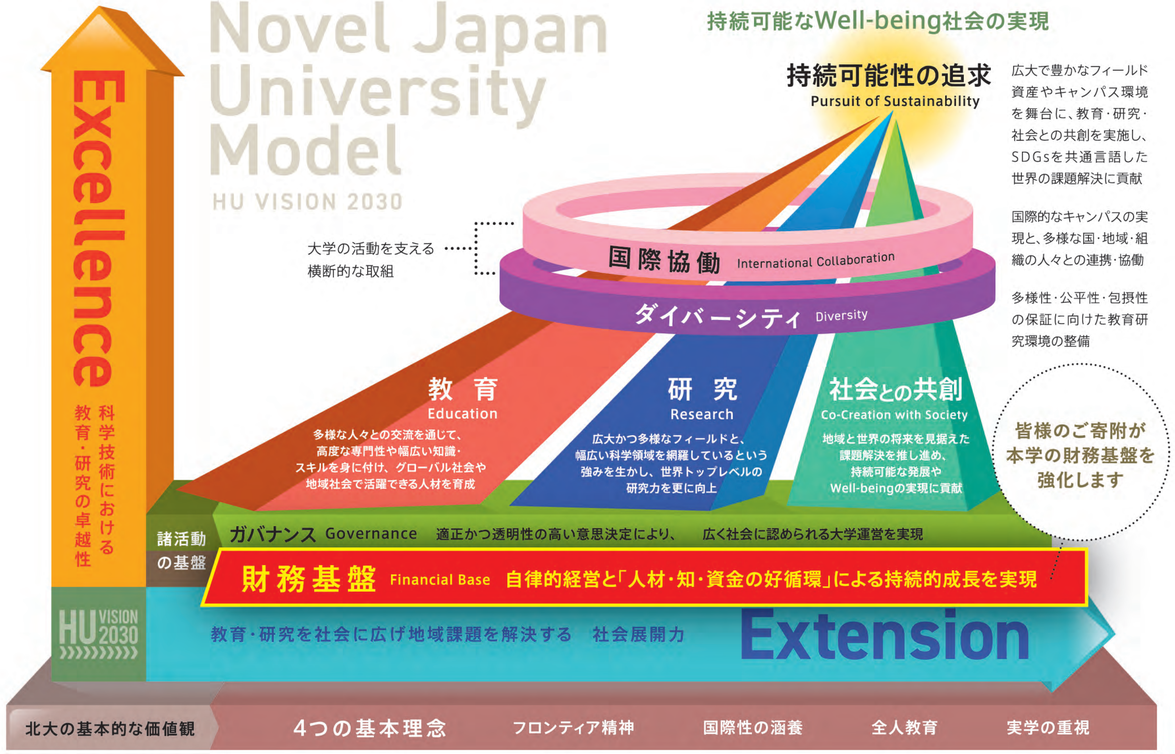
創基150周年記念募金

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。
2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として装いを新たにし、特別なメニューをご用意しています。

目標金額 50億円

大学全体への支援

北海道大学は、次の150年に向けてExcellenceとExtensionという2つの軸に基づいて、持続可能なWell-being社会の実現を目指しています。そのために、「大学全体への支援」としていただいた寄附は、①グローバル社会や地域社会で活躍できる人材育成、②世界トップレベルの研究力のさらなる向上、③地域と世界の課題解決の推進といった北大らしい取り組みを実施・継続するための原資として活用させていただきます。



大学全体への支援 申し込みページ https://www.hokudai.ac.jp/fund/Regist=1

特定記念事業を応援する

1 人材育成事業

もっと学びたい、社会の最前線で活躍したい学生に特別な教育を提供

地域社会や世界をフィールドにしたアンビシャス教育を展開。未来社会の開拓者（イノベーション・フロントランナー）を育成します。

https://www.hokudai.ac.jp/fund/Regist=11601

2 こども本の森事業

こどもたちに、多様な本と出会い創造力や好奇心を育む機会を

自然豊かな環境の中で、こどもたちが自分だけの大切な一冊と出会い、新たな世界に触れられるようサポートします。

※こども本の森とは世界的建築家の安藤忠雄氏が、ご自身が設計・建築費を負担して自治体に寄贈しているこどものための図書施設です。

https://www.hokudai.ac.jp/fund/Regist=11603

3 古河講堂の改修・利活用事業

新（あたらしさ）と古（いにしえ）の融合

国の有形文化財として保全されている古河講堂を復元し、SDGsの達成やDEI推進に関する取り組みを伝える「場」として利活用します。

https://www.hokudai.ac.jp/fund/Regist=11602

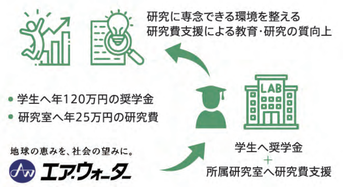
企業のご寄附で実施した事業例

ニトリ海外留学奨学金

本学と、大学間交流協定および部局間交流協定等を締結している大学へ留学を希望する学生のうち、交換留学制度を利用して留学する学生等を対象とした奨学金プログラムです。

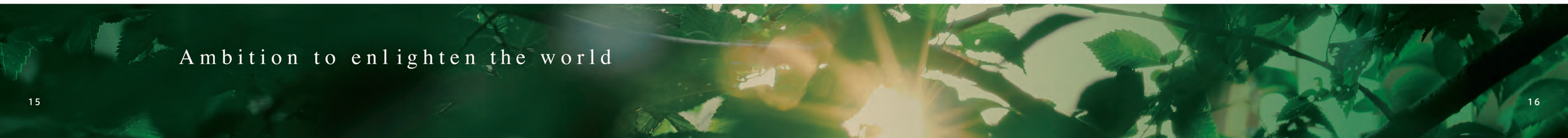
エア・ウォーター協働教育研究支援プログラム

本学学生に対して研究に専念できる環境を整える給付型奨学金や研究費をエア・ウォーターが寄附し、優秀な人材の育成、研究の質向上を図るとともに、我が国及び世界の発展を目指します。本学修士課程に在籍する学生を対象とし、5年間で合計15名に支援します。



北大・日立協働教育研究支援プログラム

本プログラムは、社会課題解決に貢献できる高度な技術の研究開発に取り組む人財を育成するために、優秀な学生の博士課程進学を促し、研究に専念できる環境を整える給付型奨学金プログラムです。本学博士課程に在籍する最大9名の学生を対象としています。



支援事業一覧

創基150周年記念事業のほかにも、学部・研究院単位の教育研究活動支援、学生の修学支援や課外活動支援、環境整備支援など、多様な支援メニューをご用意しております。

学部・大学院等を応援する

◆ 学部等支援

ご指定いただいた「学部（大学院）」、「学科（専攻）」、「研究室（講座）」、「附属施設」等の研究・教育環境充実を図ります。

工学部

事業例

北海道大学工学部創立100周年記念事業

北海道大学工学部は2024年９月に創立100周年を迎えました。賜りましたご寄附を原資とし、以下の記念事業が企画されました。

1 ドクター・インテリジェンスサポート

独自の奨学金制度を新設し、安心して学べる就学環境の充実に積極的に取り組むとともに、寄附金の基金化によって継続した支援を目指します。さらに、社会人博士コースや博士起業コース（案）を新たに設け、同窓生の皆様をはじめ、志のある社会人のための就学機会と博士取得者の増加を図ります。

2 カンパニーボード・マッチングサポート

企業と修士・博士学生をつなぐサポート体制を構築します。現在、本学の先端人材育成センターが主宰している、博士・ポスドクを対象とした企業とのマッチングイベント「赤い糸会」に加えた新たな取り組みです。企業が求める人材に関する情報を修士及び博士学生へ積極的に提供し、学生自身が卒業後の進路について、できるだけ早い時期から真剣に考える機会を創ります。

3 エンジニアリング・アクションプログラム

理工系の素晴らしさや楽しさを伝える伝道師となるべく、中学・高校で出前講演を行うことにより、理工系を志望する学生の増加に寄与することを目指します。

4 SDGsオアシス

100周年記念事業のキャッチフレーズ「つなげ工学知、次の世紀へ！」を体現するべく、これまでの工学部の歴史とこれからの科学が行き交う憩いの場として活用されることを祈念し、「SDGsオアシス」と名付けた空間を整備いたしました。

5 ヴァーチャル工学部

メタバースにより、オンラインやハイブリッドでの授業や演習、各種の講演会が行われ、学生はもちろん、同窓生の皆様も講演会等に参加できます。

6 記念誌の発行

工学部の100年の歩みと数多くの功績を後世に伝えるとともに、先人達が築いてきた偉業を称えるため「北大工学部百年史」を編纂し、併せてDVD版も作成します。また、貴重な写真等をアーカイブズ化することにより、同窓生の皆様と工学部100年の歴史を振り返りながら、創立以来の工学知を共有します。

学生を応援する

◆ 学生支援

奨学金制度・顕彰制度のほか、課外活動・学生福利厚生施設等のさらなる充実を図ります。

◆ 新渡戸カレッジ支援

グローバル社会で活躍できるリーダーの育成を目指す特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を支援します。

◆ 修学支援（税額控除対象）

意欲と能力のある学生が経済的理由で修学・進学を断念することなく、希望する教育を受けられるよう支援します。

国際連携を応援する

◆ 国際連携支援

多様な国・地域・組織の人々との連携・協働を支援します。

研究者を応援する

◆ 研究支援

若手研究者の基礎研究を支援します。

◆ ポスドク等研究者支援（税額控除対象）

学生または不安定な雇用状態にある研究者（ポスドク等研究者）が安心して研究を続けられるよう支援します。

キャンパスの維持・保全を応援する

◆ 施設・環境整備支援

キャンパス緑化の他、札幌農学校第2農場や古河講堂等、歴史的建築物を後世に伝える取り組みを支援します。

卒業生連携を応援する

◆ 卒業生との連携支援

卒業生同士の交流や新たな出会いの機会創出を支援します。

社会貢献活動を応援する

◆ 産業界との連携支援

教育研究環境を活用した産業界との連携強化を図ります。

◆ 社会貢献活動支援

学術研究と教育成果の公開促進、市民公開講座等の充実を図ります。

クラウドファンディング

2024年度達成 プロジェクト進行中

第2弾！世界のクマ研究最前線 人とクマが共に生きられる環境を未来へ

◎ ヒマラヤ高山域でのヒグマの生態を明らかにすることを目的にネパールで調査を行いました。

◎ 北海道知床半島でヒグマ4頭を捕獲し、血液や体毛など研究材料の採取とGPS首輪の装着·行動追跡を行いました。その他、定期的にヘアトラップによる体毛の採取ならびに痕跡調査による糞の採取を行い、各々からDNA抽出と遺伝子解析を行いました。さらに、DNAメチル化を指標とした年齢推定や体毛中に蓄積した水銀濃度の測定などを実施しました。

◎ ヒグマおよびエゾシカにおけるマダニ媒介性病原体ならびに腸管内寄生虫の探索研究を実施しました。

◎ その他、総合博物館での企画展示や一般市民向けのイベント開催等、普及·啓蒙活動を行いました。

目指せ一部リーグ優勝｜創部123年、北大硬式野球部強化プロジェクト

◎ 外周フェンスの改修、防球ネットや大型ネットの改修、ピッチングマシンの更新、プレハブの改修を行いました。

◎ 春季リーグ戦では6位、秋季リーグ戦では4位、翌年の2025年春季リーグでは5位となり、プロジェクトに掲げた「一部リーグ優勝」を目指して、現在も一部リーグで頑張っています。

◎ 2025年8月に行われた全国七大学総合体育大会では見事優勝を果たしました。

北海道大学は、2022年9月12日、日本初·国内最大級のクラウドファンディングサービスを運営するREADYFOR 株式会社と業務提携を開始しました。2024年度は、前年度から募集を継続していたものを含め5件のプロジェクトが目標金額を達成しました。応援してくださった皆様に心より感謝申し上げます。プロジェクトの進捗状況については、READYFORのWEBサイト内にあります、各プロジェクトの「活動報告」ページに随時掲載してまいりますので、是非ご覧ください。国立大学を取り巻く環境が日々変わっていく中、クラウドファンディングを通して本学の社会的使命を真摯に伝えることで、卒業生、関係者ばかりでなく、地域住民の皆様、企業の皆様から、知の拠点として、本学をより身近に感じていただけるよう取り組んでまいります。

2025年度プロジェクト開始

耳鼻咽喉科手術の未来を担う 次世代の医師への教育プログラム実現へ

◎ 若手医師が、専門研修講義、臨床セミナー、サージカルトレーニングを継続的に受けられるよう、教育プログラムを整備·実施します。

難病「多発性嚢胞腎」 新規治療薬開発の基礎研究に対するご支援を

◎ 常染色体顕性多発性嚢胞腎の疾患モデルマウスに対してエンテロペプチダーゼ阻害薬を投与した結果、非常に効果があることが概ね証明できているため、今後、既存薬との比較や、既存薬と同時に使用した場合の効果について研究を進め、臨床試験に繋げることを目指します。

恐竜調査研究最前線 —極寒の地で生きた、恐竜たちの痕跡を求めて—

◎ 2025年夏のアラスカ調査が始まりました。主な目的は、できるだけ多くの恐竜の足跡化石を発見·記録すること、そして無脊椎動物化石や植物化石の分析、地質調査を通じて、「極域における恐竜の生態の復元」に迫ることです。

寄附申込方法

郵便振替・銀行振込によるご寄附

北大フロンティア基金の「払込取扱票（振込通知書）」をご利用ください。

ゆうちょ銀行・郵便局（口座振替・現金による払込）

口座振替による「払込手数料」は、本学が負担いたします。現金による払込の場合は、本学が負担する払込手数料とは別に、現金利用時の加算料金として、1件あたり110円が寄附者様のご負担となります。詳しくは、ゆうちょ銀行・郵便局窓口でご確認ください。

銀行振込

銀行窓口をご利用の場合は、振込金額とは別に振込手数料を寄附者様にご負担いただくこととなりますのでご留意ください。北洋銀行・北海道銀行の窓口をご利用の場合は、振込金額に関わらず振込手数料として、1 件あたり110 円を寄附者様にご負担いただきます。なお、現金自動預金支払機（ATM）やネットバンキングをご利用の場合は、寄附者様の特定が困難となりますので、できる限り金融機関の窓口をご利用いただくか、お手続き前に、北大フロンティア基金ホームページ掲出の「寄附申込書」にご記載の上、メール、FAX または郵送でお送りください。

クレジットカード決済によるご寄附

クレジットカード決済でお申込いただいた場合は、ご指定のカードにて自動引き落しをさせていただきます。寄附回数は、「毎月」「年2 回」「年1回」「1回限り」から選択いただくことができます。申し込みから着金まで1～2カ月ほどかかる場合がございます。領収書の日付は着金日となりますのでご留意ください。

コンビニ決済によるご寄附（個人 法人・団体）

コンビニ決済でお申込いただいた場合は、後日、決済代行業者より、コンビニエンスストア収納用のバーコード付払込取扱票を送付いたします。お手元に届きましたら、お近くのコンビニエンスストアに払込取扱票をご持参いただき、現金にてお支払い下さい。窓口でのお支払いから着金まで1カ月ほどかかる場合がございます。領収書の日付は着金日となりますのでご留意ください。

PayPayによるご寄附

PayPayをご利用の場合は、初回アクセス時にPayPayへのログインが必要です。寄附者様ご本人名義のアカウントで手続きをお願いいたします。申し込みから着金まで1カ月ほどかかる場合がございます。領収書の日付は着金日となりますのでご留意ください。

北大フロンティア基金寄附申込ページはこちらから　個人の方 ▶　法人・団体の方 ▶

税制上の優遇措置

個人からのご寄附

「北大フロンティア基金」へのご寄附については、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金（所得税法第78条第2項第2号）として財務大臣から指定されております。

1 所得税が控除されます。

寄附金額（その年の総所得金額の40％を上限）から2,000円を引いた額を、所得税の課税所得金額から控除できます。「修学支援」及び「ポスドク等研究者支援」にご寄附の場合は、下記の「所得控除」または「税額控除」いずれか一方の有利な制度をご選択いただけます。

《税控除のしくみ》

所得控除制度（北海道大学へのすべての寄附金が対象）
所得控除を行ったあとに所得税率を乗じるため、所得金額に対して寄附金額が大きい場合には減税効果が大きくなります。

（寄附金額※1－2,000円）×（所得に応じた）税率
→課税所得金額から控除

税額控除制度
（「修学支援基金」及び「ポスドク等研究者支援」への寄附金が対象）
所得税率に関係なく所得税額から直接寄附金額の一定割合額が控除されるため、多くの場合、所得控除制度に対して減税効果が大きくなります。

（寄附金額※1－2,000円）×40％＝控除対象額※2
→所得税額から控除

※1 控除対象となる寄附金額は、その年の総所得額等の40％が上限となります。
※2 所得税の控除額は、その年の所得税額の25％が上限となります。

寄附金控除シミュレーション ▶

2 住民税が控除されます。

寄附をした翌年1月1日に本学を「寄附金税額控除対象法人等」として指定している地方自治体にお住まいの方は、寄附金額（その年の総所得金額の30％を上限）から2,000円を引いた額に対し、都道府県民税は4％、市区町村民税は6％を乗じた額が控除されます。（都道府県と市区町村双方の指定を受ける場合は10％となります。）

寄附金控除を受けるための手続き等について

寄附金控除を受けるためには、所轄の税務署へ所得税の確定申告書を提出してください。この場合、住民税の申告は不要です。確定申告をしない給与所得者又は年金所得者で、住民税の寄附金税額控除だけを受けようとする場合は、住所地の市区町村に申告してください。この場合、所得税の控除は受けられません。

法人によるご寄附（法人税の優遇）

「北大フロンティア基金」へのご寄附については、法人税法上の全額損金算入を認められる寄附金（法人税法第37条第3項第2号）として財務大臣から指定されております。ご寄附をいただいた寄附金は、法人の所得から控除され、税法上の優遇措置を受けることができます。

遺贈について

将来ご自身が遺される財産を本学の発展のために役立ててほしいとのお申し出をいただく機会が増えております。本学では、皆様のご意思をお預かりし、次の世代へとおつなぎするため、北大フロンティア基金を通じての「遺贈」についてご案内しております。皆様の想いを確実に後世に残すため、本基金が皆様の将来設計の一助となりますと幸いです。

遺贈寄附の流れ（ご生前）

1 遺言によるご寄附について卒業生・基金室へご相談ください

2 遺言執行者をご指定いただきます

遺産の引渡しや登記などの手続きを行うときに、法律や財務、不動産登記などの知識が求められることがあるため、遺言執行者には弁護士、司法書士、行政書士、信託銀行などの専門家を指定されるケースが多いようです。

本学では下記の銀行・信託銀行と協定を結んでおりますので、お気軽にご相談ください。

北大フロンティア基金が提携している銀行・信託銀行	●三井住友銀行　●三井住友信託銀行　●三菱UFJ 信託銀行　●北洋銀行

3 遺言書の文言表記について確認がある場合がございます

法的に有効で執行できる遺言書を作成するため、遺言執行者から北海道大学に対して、遺言書の文言表記などについて確認が行われることがあります。

※ご本人の了承なく、遺言者の個人情報を遺言執行者と北海道大学の間で共有することはありません。

4 遺言書を作成いただきます

民法で定められた代表的な方法として、「公正証書遺言」と「自筆証書遺言」の２種類があります。相続時のトラブルを防止し、遺言の内容をより確実に実現するためには、「公正証書遺言」の作成をおすすめします。

5 遺言保管中のご連絡について

遺言書の書き換えや転居などがございましたら、卒業生・基金室までご連絡ください。

遺贈寄附の流れ（ご逝去後）

6 遺言執行者へご逝去のお知らせをいただきます

遺言執行者にご逝去のお知らせが届くことで、遺言の執行が開始されます。お知らせがない場合は遺言書のご意思が実現されなくなるおそれがありますので、遺言執行者とご相談の上、ご家族や信頼できる方などから通知人を選び、あらかじめ遺言執行者へ連絡する手順を確認しておくことをお勧めします。

7 遺言書の開示があります

8 遺言執行と財産の引渡しがおこなわれます

北海道大学に遺贈いただいた財産には
相続税が課税されません

「遺贈のご案内」パンフレットの
請求はこちらから ▶

寄附者の皆様への御礼

称号の贈呈

これまでのご寄附累計金額をもとに、次の称号を贈呈いたします（個人のみ）。

北海道大学
エクセレントビジョナリースポンサー
累計5,000万円以上のご寄附

北海道大学
ビジョナリースポンサー
累計1,000万円以上のご寄附

※累計の起算は北大フロンティア基金創設時（平成18年）からとなります

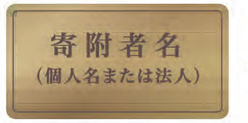
称号贈呈者への特典	記念盾の贈呈	入学式、卒業式などの本学公式行事へご招待

銘板の掲出

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます（個人・法人共通）。

Plate Type

プレミアムゴールド
累計1億円以上のご寄附



ゴールド
累計1,000万円以上のご寄附

シルバー
累計500万円以上のご寄附

ブロンズ
累計100万円以上のご寄附

※既存の銘板（ホワイト）は累計20万円以上が対象です

「150アニバーサリーサポーター」記念品

創基150周年記念募金期間中（令和5年3月1日～令和9年3月31日）に1回50万円以上のご寄附を賜った方には「150アニバーサリーサポーター」として記念品を贈呈します（個人のみおひとり様1回限り）。

Tシャツ

＋

バッジ

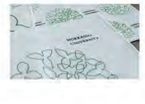
＋

ペンケース、IDホルダー、ポーチ（いずれかひとつ）

その他の御礼

御礼	個人	法人
レザートレイ	10万円以上	
マルチクロス	1万円以上10万円未満	
広報誌へのご芳名掲載	掲載を希望されるすべての寄附者 北大クラウドファンディングへのご寄附については掲載しておりません。	

このほか、寄附使途に応じて、各学部にて特典をご用意している場合がございます。



北大フロンティア基金へご寄附を賜りました皆様へ、感謝の気持ちをお伝えさせていただきました。

紺綬褒章の伝達

本学から推薦させていただいた受章者へ総長から褒状を伝達いたしました。

東原 俊郎 様
（発令：令和6年7月27日　伝達：令和6年10月1日）

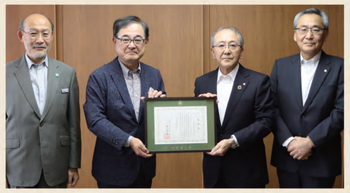
一般財団法人砂防・地すべり技術センター 様
（発令：令和6年6月22日　伝達：令和6年10月23日）

柏木 道彦 様へはご郵送にて伝達いたしました（発令：令和6年10月26日）

※紺綬褒章は、公益のために私財（個人の場合500万円以上、法人の場合は1,000万円以上）を寄附した方に国から褒章を授与する制度であり、国及び地方公共団体の他に指定された「公益財団」も対象となります。本学では、平成29年11月以降の対象者に対し、ご意向を伺い推薦を行っています。

感謝状の贈呈

一般財団法人砂防・地すべり技術センター 様
（令和6年6月13日）



北海道電力株式会社 様
（令和6年6月20日）

アジア航測株式会社 様
（令和6年7月4日）

山田 豊 様
（令和6年8月6日）

株式会社中村プロモーション 様
（令和6年8月6日）

株式会社クボタ 様
（令和6年8月22日）

松本 篤二 様、松本 佳子 様
（令和6年9月6日）

伊藤 獻一 様
（令和6年9月27日）

株式会社日立製作所 様
（令和6年10月8日）

株式会社シルバーバックス・プリンシパル 様
（令和6年10月10日）

吉田 広志 様
（令和6年11月12日）

上田 昭平 様
（令和6年11月12日）

ワタキューセイモア株式会社 様
（令和6年12月9日）

山下 裕久 様
（令和6年12月12日）

大出 孝博 様
（令和6年12月16日）

小林 清一 様
（令和6年12月18日）

公益財団法人杉野目記念会 様
（令和6年12月24日）

田中 利男 様
（令和7年1月22日）

北海道ガス株式会社 様
（令和7年1月28日）

齋藤 和雄 様
（令和7年2月17日）

株式会社HBA 様
（令和7年3月5日）

株式会社キットアライブ 様
（令和7年3月21日）

贈呈式でのお渡しが
かなわなかった方々には
ご郵送とさせていただきました。

矢ケ崎 啓一郎 様、清末 数仁 様

※（）内の日付は贈呈日

札幌農学校　北海道コンフェクト株式会社

北大短角牛　株式会社わっか

北大ラズベリー クランチチョコ他
株式会社ベリッシモ

様々な認定商品を通じて、多くの企業様から継続的なご支援をいただいております。この場を借りて御礼申し上げます。

表紙写真 北海道大学北キャンパスエリア

北海道大学 社会共創部広報課 卒業生・基金室

〒060-0809 札幌市北区北9条西6丁目 北海道大学 百年記念会館内

Tel 011-706-2017　E-mail kikin@jimu.hokudai.ac.jp

Fax 011-706-2010　Web　https://www.hokudai.ac.jp/fund/

北海道大学 東京オフィス

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7-12 サピアタワー10階

TEL/FAX 03-3211-2055

令和7（2025）年9月発行